



EMERSON

EM-239t

エマーソン

タイヤリフター



取扱説明書

この度は「エマーソン タイヤリフター クルピタ丸」をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本製品を正しく安全にご使用頂くために、この取扱説明書をよくお読み下さい。また、読み終わりましたもこの取扱説明書を大切に保管の上、必要の都度お読み返し下さい。



4 975960 117340
この製品は日本国内で企画・設計し
中国で生産しています。

仕様

品番	EM-239t
商品名	エマーソン タイヤリフタークルピタ丸
許容重量	60kg
許容タイヤサイズ	タイヤ幅 : 285サイズまで タイヤ直径 : 810mmまで
製品重量	5.7kg
本体サイズ	幅600×高さ185×奥行き485mm

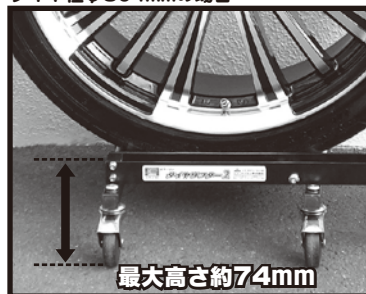
※改良のため、予告なく仕様及び外観の変更をすることがあります。

タイヤサイズと高さ

サイズ	直径	最大高さ
285/60-18	φ 804	約74mm
235/50-18	φ 697	約71mm
215/45-17	φ 630	約68mm
155/65-14	φ 557	約64mm

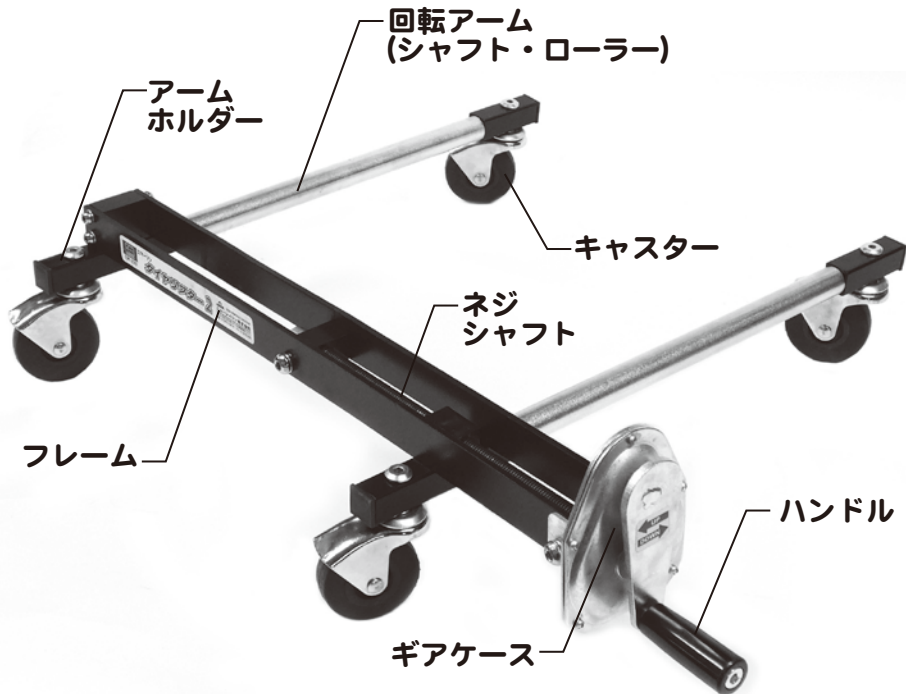
※上記数値は標準値による計算値です。

タイヤ径φ804mmの場合



※最大高さ…アーム幅を最も狭めた場合に
タイヤが浮く高さです。

■各部名称



■安全上のご注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

- 本製品を正しく安全にご使用頂くため、ご使用前にこの「安全上のご注意」を必ずお読みになり、よく理解したうえで正しくお使い下さい。
- この取扱説明書は大切に保管のうえ、ご使用中に分らなくなった時など、必要な都度、お読み返し下さい。また、他の人が使用する場合も同様です。
- ここに示す注意事項は、本製品を正しく、安全にご使用頂くためのもので、本製品を使用する方や、周囲への危害や損害などを未然に防止するものです。

■使用上の注意と警告マーク

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

	警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
	注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容及び物的損害の発生が想定される内容を示します。

■ご使用前の注意と警告

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。



警告

- 本製品はタイヤ交換時にタイヤをサポートして、ボルトホールとの位置合わせを補助するためにご使用頂くもので、車両本体のジャッキアップは出来ません。
- 回転アーム部のローラーを踏みつけると転倒につながります。十分注意して下さい。
- 車両本体のジャッキアップには別途、ジャッキが必要となります。
- ジャッキアップ作業に関してはジャッキの取扱説明書をお読み下さい。
- 本来の目的以外で使用しないで下さい。
- 投げる・落とす・叩くなどの衝撃を与えないで下さい。
- 本製品の分解や改造をしないで下さい。本来の性能を発揮できないばかりか、タイヤリフターが破損し、危険な場合があります。
- ご使用前に本製品のキャスターやローラー部に異常がなく、スムーズに動くかご確認下さい、異常がある場合は使用を中止し、販売店もしくは本書記載の製造元へご連絡下さい。



注意

- 回転アーム部のローラーは可動します。手指など挟まないよう注意してお取扱い下さい。

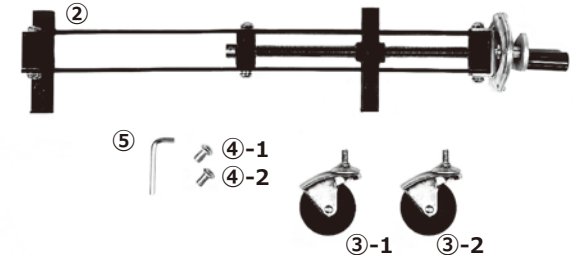
<組立ての前に>

- 下記パーツが揃っていることを確認して下さい。
※各部にグリスが付いています。手袋をして作業して下さい。

①回転アーム(シャフト・ローラー)	2本
キャスター付 ※ローラーは外れます。	
②フレーム	1個
③キャスター	2個
④ナット&ワッシャ	2個
⑤六角レンチ	1本



※④のナットはアームに仮止めされています。

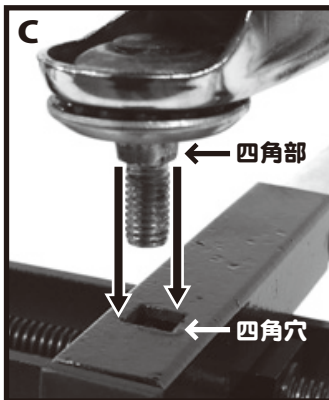
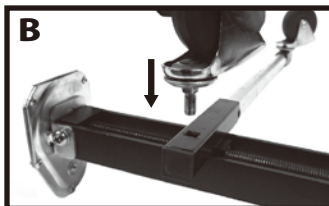


<組立て方法>

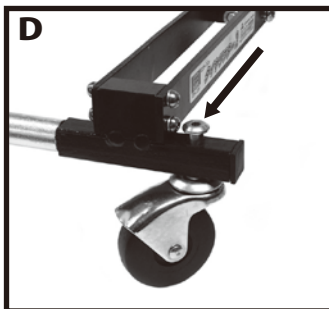
- ①フレームのアームホルダー部に回転アームを差し込んで下さい。※写真A参照
※写真はフレームを逆さにして作業しています。



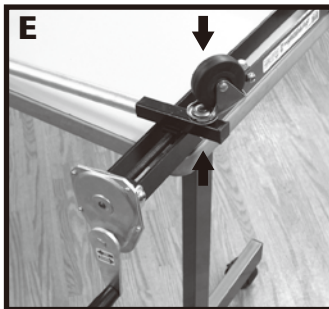
- ②キャスターをアームホルダーの四角穴に差し込んで下さい。※写真B/C参照
- ・回転アームのシャフトの穴がアームホルダーの穴に合っている事を確認して下さい。
 - ・キャスターのボルトの根元にある四角部がアームホルダーの四角穴にはまっている事を確認して下さい。



- ③ナットをキャスターのボルトに合わせて締め付けて下さい。(スプリングワッシャ使用)※写真D参照
- ・キャスターのボルトとナットが合わせづらい場合があります。その際は回転アームの位置を調整しながら合わせて下さい。
- ナットを先に差し込んでからキャスターのボルトを合わせる方法もあります。



- ・写真Eのように、テーブルや作業台の角を使用して作業すると、ボルトとナットが合わせやすくなります。



- ・回転アームを2本取付けたら完成です。

■ご使用方法と使用上の注意 ⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

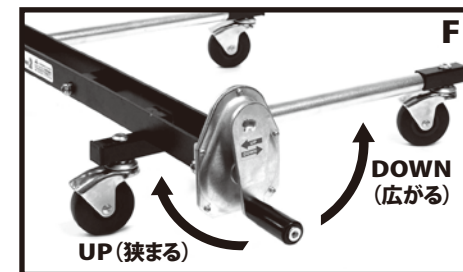
⚠ 警告	<ul style="list-style-type: none"> ●本製品はアスファルトやコンクリートの水平で堅い地面で使用して下さい。 ●タイヤリフターにタイヤを載せたままにして、その場から離れないで下さい。思わぬ方向に移動してタイヤが落下すると、タイヤやホイール、周囲の物などに傷を付けたり、事故になる恐れがあります。
⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> ●タイヤリフターの許容重量は60kg迄です。タイヤは衝撃を与えないように載せて下さい。また、作業中に車体の重さが掛からないよう注意して下さい。車体の重さが掛かるとタイヤリフターが変形・破損します。 ●回転アームの先端側にタイヤを載せるようにして下さい。フレーム側に載せると、ハンドルがタイヤに当たる場合があります。

<作業の前に>

- ・一般的な手動ツール使用時の工程に沿って説明します。インパクトレンチ等の使用時は多少工程は変わります。
- ・ジャッキアップ作業に関しては、ジャッキの取扱説明書をよくお読み下さい。

<ハンドルの回転方向>

- ・写真Fの状態からUP方向に回転させると回転アームの幅が狭くなりタイヤが上がります。
- ・DOWN方向に回転させると回転アームの幅が広がりタイヤが下がります。



<外したタイヤのサポート>

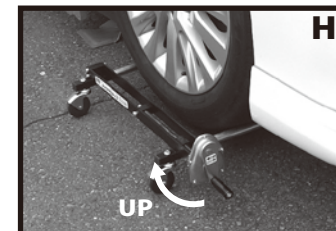
- ①ホイールのナット(ボルト)を仮緩めしてから車体をジャッキでジャッキアップし、タイヤが地面から浮いたら、タイヤの下にタイヤリフターを入れる。※写真G



作業のヒント

ジャッキアップ作業の際、お車を上げる高さを4輪とも同じようにすると、タイヤリフターの幅調整が少なくて済みます。

- ②タイヤリフターの回転アームが、タイヤに接するように幅をせばめる。(ハンドルをUP方向に回す) ※写真H参照



作業のヒント

ハンドルを10回転するとタイヤの高さは約2mm変わります。
※タイヤ径φ804mm・回転アーム中間位置の場合

- ③ホイールのナット(ボルト)を緩めて外す。※写真I参照



- ④タイヤリフターにタイヤを載せたまま引き出してタイヤを外す。※写真J参照



作業のヒント

ハンドルをUP方向に回して、少しタイヤを持ち上げるとスムーズに引き出すことができます。

<装着用タイヤのサポート>

- ①タイヤリフターに装着用タイヤを載せる。
※載せた後は、タイヤが転倒しないように注意して下さい。
- ②車体の取り付け部にタイヤを近づける。※写真K参照
- ③車体の取り付け部のセンターハブとホイールの中心の高さを合わせるようにハンドルを回して調整する。
※写真L参照

作業のヒント

- ①目線を低くすると合わせやすくなります。



- ②ハンドルを10回転するとタイヤの高さは約2mm変わります。
※タイヤ径φ804mm・回転アーム中間位置の場合

- ④車体の取付け部のボルトとホイールのボルトホールが合うようにタイヤを回転して調整し、ボルトをボルトホールに入れる。※写真M参照
ボルト取付けタイプのお車の場合、車体のボルトホールとホイールのボルトホールを合わせてホイールを取付け部に近づけて下さい。

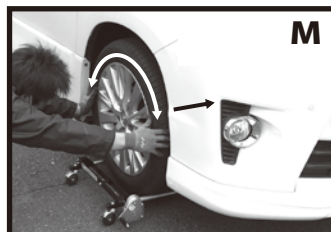
作業のヒント

同時に2カ所のボルトホールを意識すると合わせやすくなります。高さ調整も一緒に行ってください。

- ⑤ナット(ボルト)を取り付けて仮締めする。※写真N参照
必ずネジ目を合わせてから手動工具で仮締めして下さい。
- ⑥タイヤリフターの回転アームの幅を広げるか、(ハンドルをDOWN方向に回す)車体をさらにジャッキアップして、タイヤリフターを外す。※写真O参照

- ⑦タイヤが地面に接地するまでジャッキダウンしてナット(ボルト)を本締めする。

- ⑧ジャッキダウンしてジャッキを外す。



■ご使用後の注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。



注意

- 保管の際は、雨や雪の当たる場所や湿気の多い場所は避けて下さい。錆や劣化の原因となります。

■メンテナンス

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。



注意

- キャスターの動きが悪くなった場合は、ベアリング部にスプレーグリスなどで注油して下さい。
- ローラーの動きが悪くなった場合は、回転アームをフレームから外して、ローラーとシャフトの間にグリスを塗布して下さい。
- 定期的にネジシャフトにグリスを塗布して下さい。
- 定期的にギアケース内に機械油を注油して下さい。

<注油方法>

- ギアケースのゴムキャップを外して機械油を注油して下さい。※写真P参照



■万が一、事故や損害が発生した場合について

万が一、本製品の欠陥が原因となり事故や損害が発生した場合は、直ちに発売元までご連絡下さい。また、原因の究明にあたって、下記のような必要最小限の情報のご提供や、現品の回収をお願いする事があります。調査前に処分されないようお願い致します。

- 事故の詳細
- 使用状況
- 現品回収
- 損害のあった物の写真
- 医療機関の診断書
- その他、事故や損害の状況に応じて必要な情報など